



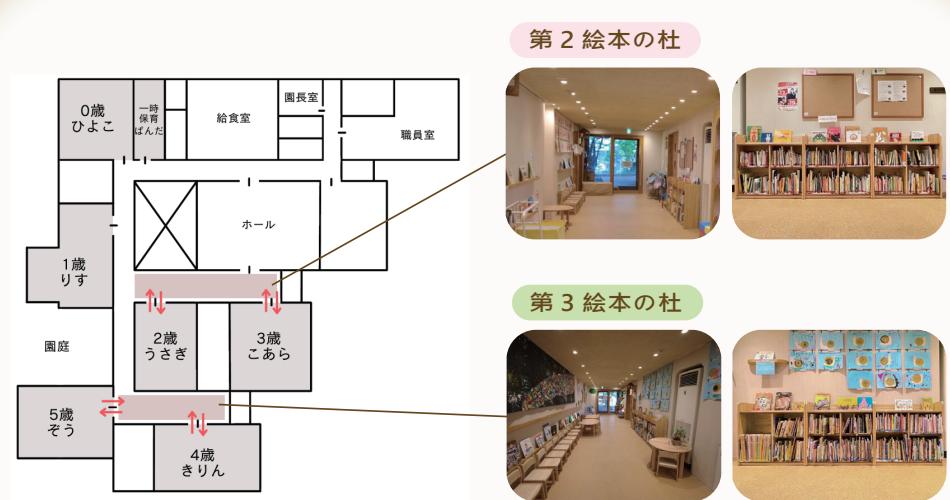
絵本空間におけるスターリーハウスとアングルローデスクの提案 － 梶山こども園絵本の杜を事例として－

背景と目的

近年、スマートフォンの普及やコミュニケーションツールの多様化など、子どもを取り巻く情報環境に大きな変化を見せている。これらは子どもたちの読書環境に大きな影響を及ぼしており、読書離れや活字離れが指摘されている。

愛知県名古屋市名東区にじが丘に所在する梶山女子園大学附属梶山こども園には、「絵本の杜」という幅 2.8m の廊下に絵本空間が設けられており、2・3歳児保育室前は「第 2 絵本の杜」、4・5歳児保育室前は「第 3 絵本の杜」と呼ばれている。

本企画では、子どもが絵本に親しみを持てる家具の制作を行うことで、読書活動を活発化させ、読書習慣の形成を促すことを目的とする。加えて、絵本の杜における子どもの読書活動の実態を把握し意識・行動との関連性を捉えることで最適な空間構築を行う。



行動観察

2024年6月3日(晴天時)と7月1日(雨天時)の2日間に分けて行動観察を行った。利用頻度や利用方法など、晴天時および雨天時の実態を把握することを目的としており、絵本の杜に適した、子どもが絵本に親しみを持てる家具の制作に反映させることを狙いとする。

結果として、1人や複数人で読書をしている様子や園児同士で読み聞かせを行って読書時間を共有している様子も見られ、ほとんどの園児が表紙が見えている絵本から選んでいること、椅子より床に座って絵本を読む確率が高いことが明らかとなった。

これらより、以下の4点を兼ね備えた家具を、第2絵本の杜および第3絵本の杜に提案することで、より多くの人が集い、賑わう空間を創出し、読書活動の活性化に良い影響を与えることを目指す。

1人でも複数人でも

床に座って絵本を読める



様々な用途に対応可能

交流の場として機能

コンセプト

分析と行動観察の結果とともに、「好きなときに すきな場所で すきな本を」をコンセプトとして制作を進める。用途を限定せず、幅広い使い方ができることで、考える力、感性を磨くことを狙いとする。

帽山こども園の特徴として、子どもの安全面に配慮し、内装や建具のデザインは角が丸く、木材に合板を使用しないといった工夫がされている。そのため、本制作では厚さ15mmおよび20mm、25mmのパイン集成材を用いる。制作方法としては、接合部に金具を使用せず、簡単に組み立てが可能な家具とするため、CNC加工機を使用する。

分析

- ・表紙が見えるような配置
- ・本棚と読む場所の距離
- ・様々な読み方に対応できる家具
- ・複数人でも楽しめる空間

行動観察

- ・表紙が見えるような配置
- ・自由に出入りできる場所
- ・読み聞かせも行えるスペース
- ・床に座りやすい工夫
- ・複数人でも楽しめる空間



好きなときに すきな場所で すきな本を

デザイン案・試作

試作



第3絵本の杜

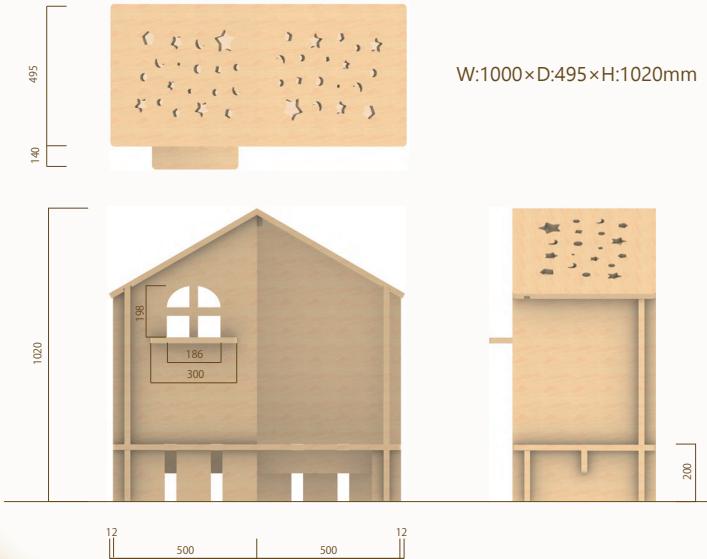


第2絵本の杜では、玩具を用いた読書以外での利用が多いことから、2・3歳児でも親しみやすく、ごっこ遊びにも取り入れられるよう、家具の形状は家型を採用した。前面と後面の底部デザインを2種類検討し、さらに台の強度を上げるため、差し込み方法も検討した結果、案2を採用した。

第3絵本の杜家具においては脚の形状を案1、案2、案3の3種類検討した。その結果、座った際の様々な体勢を考慮し、床に座り、脚を伸ばして使用する際の脚が邪魔をしない形状である案3を採用した。

starry house

- 第2 絵本の杜 -

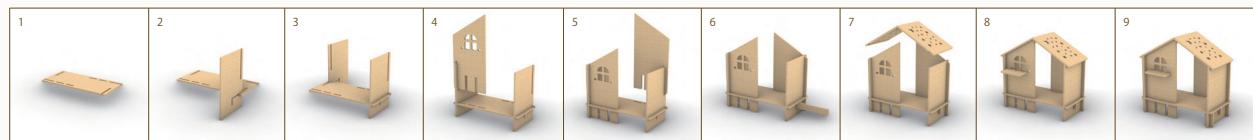


第2 絵本の杜では、読書だけでなくプレイマットや玩具の利用もあること、また避難経路の確保や給食ワゴンの動線を配慮し、廊下を広く保つため、スターリーハウスはアルコープ（写真1）に設置する。スターリーハウスはW:1000×D:495×H:1020mmで制作し、W:1035×D:500mmのアルコープに合わせて設計することで、無駄のない収まりを実現した。また、座面高は、2・3歳児の座位膝窩高に基づき、200mmに決定した。



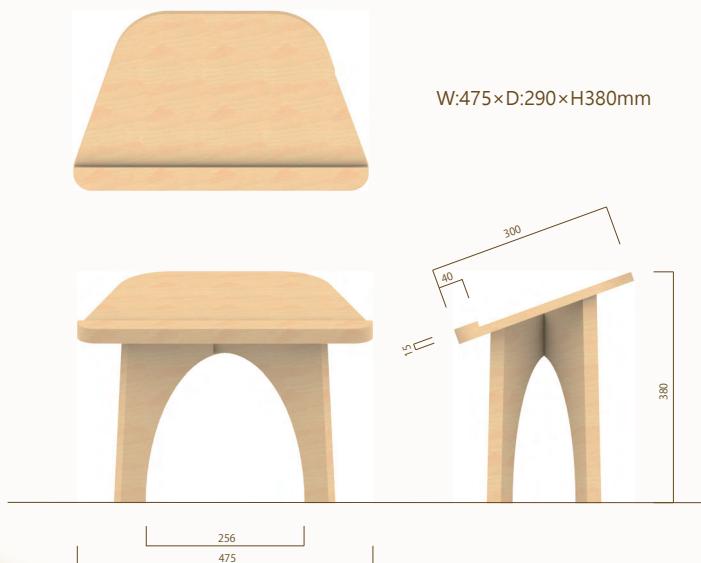
写真 1. アルコープ

1. 家具の屋根に丸や四角、星や月などの様々な形にくり抜きを施す。 →アルコープ上に設置された照明を効果的に活用。小さな穴から光が差し込むことで視覚的に楽しめる。
 2. 小窓を設けるほか、絵本や玩具を置ける台を取り付ける。 →読書以外にもごっこ遊びなどへ利用の幅を広げることで、絵本の杜での活動促進を図る。



angle low desk

- 第3 絵本の杜 -



第3絵本の杜には17脚の椅子が設置されているが、椅子に座るだけでなく、床に座る場面も多いことから、床に座っても使用できる形状の机を制作した。机の形状には台形を採用し、複数の机を繋げた際に弧を描くデザインとした。アングルローデスクはW:475×D:290×H380mmで制作する。脚のアーチ部分はW:256×H:243mmとし、4・5歳児の脚幅に合わせて設計した。また、4・5歳児の座高に基づいて天板の高さを決定した。

1. 様々な体勢に対応 →既存の椅子と組み合わせて使用できることはもちろん、床に座って使用することも可能である。
 2. 天板の傾斜角は 20 度 →体勢が身体に負担を与える可能性を軽減することができる。
 3. 単体での使用が可能であると同時に、複数を繋げると弧を描いて交流の場としても活躍



実用性検証

2024年12月10日(火)にスターリーハウスとアングルローデスクの実用性検証を実施した。11:00-17:00の絵本の杜の利用時間において、制作家具が実際にどのように使用されるかを観察する。具体的には使いやすさや利便性、園児の反応などの点を記録する。



スターリーハウスの検証結果

ブロックを持ち寄り、5人で交互にスターリーハウスに入りごっこ遊びを行っていた。屋根を見上げ、「今日も良い天気だね」と差し込む光を眺める姿や、スターリーハウスを実際の家に見立て、「ただいま」「いってきます」と楽しむ様子も見られた。検証より、定員が3名までであれば、スペースに余裕を持って利用できることが確認された。また、スターリーハウスに座って絵本を読んでいる様子も見られた。本来の目的である読書空間としての機能に加え、ごっこ遊びなど他の活動にも適用可能であることが示された。



アングルローデスクの検証結果

アングルローデスクと既存の椅子とを組み合わせて使用する姿に加え、床に座って絵本を読む園児の姿も確認された。園児は脚を伸ばしている、正座をしているなど、様々な体勢で読書を行っていた。さらに、1人で集中して読書をしている園児、2・3人で1冊の絵本を読んでいる園児、机を隣り合わせて配置し、それぞれの読書時間を共有している園児、また読み聞かせを行う園児など、机が多様な人数や体勢、使用形態に対応可能であることが示された。また、机の使用により、姿勢が改善され、身体への負担軽減に繋がると考えられる。

本制作

家具デザイン案確定後、本制作で加工を行うために必要なネスティングデータを 600×2000mm のパイン集成材を使用すると仮定し、Rhinoceros で作成した(図 1)。そして、愛知県豊川市に所在する有限会社ミタキ DIY&FAB GIFT の井上氏のご協力の下、CNC 加工機を用いて木材を切断し(写真 2)、完成した家具を帽山こども園に仮設置した(写真 3)(写真 4)。

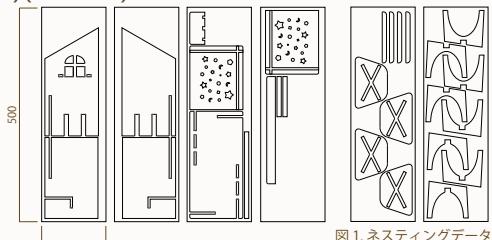


図1. ネスティングデータ



写真3. スターリーハウス



写真4. アングルローデスク



写真2. CNC 加工の様子

まとめ

本制作では、帽山こども園絵本の杜が上手く活用できておらず、無機質な印象であるという現状課題より、柔らかくホッとする空間を目指すと共に、絵本の杜での読書活動活発化のため、絵本の杜への家具制作に至った。読書活動だけでなく、椅子に座ったり床に座ったりと、様々な体勢に対応でき、ごっこ遊びにも適していて、子どもたち一人ひとりのニーズに合わせた使いができる、汎用性の高い家具制作を実現した。

実用性検証の際、アルコープ壁面と家型家具壁面との隙間に足をかけて登るという事態が起きてしまったため、座面の補強や家型家具壁面の改善が必要である。本制作家具は、帽山こども園絵本の杜へ常設予定である。4・5歳児はアングルローデスクを活用することにより、絵本に触れる機会が増加し、直接的に読書活動の促進に繋がると考えられる。

一方、読み聞かせが中心となる2・3歳児は、読書以外にも活用可能なスターリーハウスを利用することで、絵本の杜での活動が増加し、間接的に読書活動の促進に寄与することが期待される。更に、今後長期間の利用により絵本の杜における読書活動を活発化させ、読書習慣の形成が促進されることを期待する。